

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

### 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年7月27日

#### 【評価実施概要】

事業所番号	2872600354		
法人名	医療法人社団順心会		
事業所名	グループホームしらゆりの家		
所在地	兵庫県加西市北条町東高室字四ツ池1231-1 (電話) 0790 - 43 - 9804		
評価機関名	株式会社H. R. コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成19年6月18日	評価確定日	平成19年8月16日

【情報提供票より】 (平成19年5月17日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・ <del>平成</del> 15年5月15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 2 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	5.32人

#### (2) 建物概要

建物構造	RC 造り	
	2 階建ての	2 階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,300 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有 ( 円 ) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円 ) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

#### (4) 利用者の概要 ( 月 日現在 )

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	3	要介護2	4		
要介護3	1	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 86.3 歳	最低	73 歳	最高	96 歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	市立加西病院、窪田歯科診療所
---------	----------------

#### 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

「いつも笑顔を絶やしません。個別性を重視し一人一人にあったケアを提供します。利用者に快適な生活の場を提供します。焦らず、急がず待つ介護をします。」という理念は、職員に浸透し、待つ介護の実践が出来ており、家庭的な雰囲気である。立地条件的に地域とのかかわりは難しい為、ホーム側から散歩・外出を兼ねて近隣の公園に出かけ、交流が図れるように取り組んでいる。ベランダの施設も出来る限り開放し、おやつを食べたり、散歩の場所とする等工夫したケアが出来ている。
--

#### 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題と今後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 第三者評価を質の向上の為に活かすべきであると職員全員意識をしている。ベランダでのおやつや公園でのランチなど、外出の機会も多く持つようにしたり、玄関横に花壇を改造した菜園を作り入居者の楽しみを増やしている。デイルームからのベランダの出口は可能な限り開錠している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 管理者を中心に評価を記入し、全職員が評価記入内容を確認し、検討する機会を持っている。外部評価の結果を踏まえ検討し、改善策を立てている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 運営推進会議は利用者家族・地域代表(区長・老人会会長・副会長)民生委員(会長・副会長・会計)加西市職員が参加して開催し、施設の概要を伝える機会となった。運営推進会議がなぜ必要なのかとすることを、市から地域へ向けて説明する関わりを持ってもらっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7, 8) 機関紙である「ホワイト・リリー通信」を年4回発行し始め、行事での出来事を記載したり、職員異動を記載している。職員から家族面会時には、生活の様子や状態を伝えると共に、意見や不満についても聞くよう意識している。階段の踊り場には意見箱が設置されており、市の苦情受付窓口の連絡先も記載し自宅に持ち帰れるよう工夫している。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
重点項目④	市の開催する敬老会の催しへの参加・日帰り旅行など、外出機会は多い。近隣住民がホームを訪れるのが立地条件的に難しい為、ホームから散歩・外出を兼ねて近隣の公園に人出の多い土・日に出かけ、交流が図れるように取り組んでいる。

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体医療法人の理念を基本に、「利用者に快適な生活の場と個性を重視し一人一人にあったケアを目指す」というホーム独自の具体的な理念を掲げ実践している。	○	地域密着型サービスの意義を職員全員で話し合い、事業所としての役割や関係を明記した内容を表現し記載される事を期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念を入り口の壁に明示し、職員のみでなく家族・利用者に周知し日々の生活に活かしている。日々の入居者個々の身体・精神状況を把握し理念を生かしたケアの実践を行っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	立地条件的に近隣住民がホームを訪れるのが難しい為、ホームから散歩・外出を兼ねて近隣の公園に人出の多い土・日に出かけ、交流が図れるように取り組んでいる。併設老健と一緒にではあるが、地域の幼稚園・小学校・中学校との交流がある。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者を中心に評価を記入し、全職員が自己評価の記入内容を確認し、検討する機会がある。外部評価の結果を踏まえ検討し、改善している。	○	評価の狙いや活用方法を理解することで、ケアの振り返りや見直しをするよい機会となるため、全職員で自己評価に取り組むことを期待する。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者家族・地域代表（区長・老人会会長・副会長）民生委員（会長・副会長・会計）加西市職員が参加し1回開催できている。	○	2～3ヶ月に1回実施できるように今後取り組んでいく予定である。自己評価や外部評価の結果を報告するなど、積極的な意見交換の機会とし、サービス向上に活かされる事を期待する。
6	9	○市町との連携  事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1回定期開催しているグループホーム事業連絡会に市の職員も参加してもらい、連携を図っている。運営推進会議の必要性を市が地域へ向けて説明し参加を促す取り組みを持ってもらえた。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	年4回「ホワイト・リリィ通信」を発行し、行事などでの出来事を記載し日常生活がわかりやすいように配慮している。個別の入居者家族へ手紙を作成し、入居者の状況・状態を報告している。金銭管理が必要な入居者には出納状況も知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員から家族面会時には、生活の様子や状態を伝えると共に、意見や不満についても聞くよう意識し対応している。階段の踊り場には意見箱が設置されており、市の苦情受付窓口の連絡先も記載し自宅に持ち帰れるよう工夫している。	○	面会時等に家族からの意見を聞くよう努力しているが、意見が出てこないのが現状である。家族会の立ち上げ等、意見を言いやすい方法の検討を行い、遠慮せずより良いケアをするための意見を頂けるような取り組みに期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	「ホワイトリリィ通信」で職員異動の報告を行っている。顔なじみの関係が大切であると考えており、異動が及ぼす影響を最小限にできるよう配慮している。職員異動後の入居者個々の反応も観察し、ダメージへの早急な対応にも配慮している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、担当を決めて勉強会を実施している。年間の計画は立てられていないが、事業所の目標に従い、外部研修の受講機会を増やしている。働きながら学習できるよう勤務内で時間を調整し、研修を受けやすい体制を整えている。	○	職員の立場や経験年数・習熟度に合わせ段階に応じた研修が必要になる。事業所としての年間目標をもとに研修の年間計画を立案し、実施していくことが望ましい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、意見交換や交流はできている。職員間の交流の必要性を認識しており、会議でも話し合われているが、実現には至っていない。今後市の力を借りて交流の場が持てるよう取り組んでいく予定である。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービス利用から入居に至るケースや希望により入居前に見学を実施し入居してもらっている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	「待つ介護」を基本としており、日常スケジュールは強要しないようにしている。食事作りや掃除・洗濯・作業など本人の意志を尊重しながら、職員が一緒になって行っている。職員の休憩時間に利用者も一緒にお茶を飲むなど、自然な流れの中でケアや関係が出来ている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に生活歴や背景など本人や家族から聞き、把握するよう努めている。また、日々の中で知りえた情報は、生活記録に記載し職員全員で把握できるようにしている。		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時のオリエンテーションで情報の提供を受け、介護計画について話し合う機会を持っている。家族や本人の意見をきき、介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回介護計画を見直している。毎月サマリーとして、個人記録やカンファレンスでの入居者の評価をまとめ記入し個々の変化を見ている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診の同行・入居者の入院中の洗濯など家族の希望に応じて対応している。現在、デイサービスやショートステイは行っていないが、今後デイサービスや空いている居室を利用したショートステイを検討していく予定である。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族が希望される医療機関を受診できるように支援している。家族が受診に同行できない場合には職員が同行し、家族に受診結果を伝えている。情報提供票で職員間の受診内容の情報交換も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアは、実施していない。入居時には家族の意向を確認し、ホームの体制の説明を行っている。主治医や職員・家族や入居者の意見交換の機会を持っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりにあった声かけ・対応を行い利用者の誇り・プライバシーに配慮している。入居者・家族の希望の呼称を把握して声かけを行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は大まかにあるが、入居者本人のペースに合わせ、無理にならないよう声かけを行い支援している。入居者の発言を大切に、その日に予定を決める事もある。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望・季節感を取り入れたメニューを考え、入居者が手伝える部分は手伝っている。入居者の嗜好調査は行っていないが、食事の残量や広告や料理本を利用して入居者の嗜好を把握するよう努力している。アレルギーに関して代替メニュー、嚥下の問題に関しては、状態に合わせて調理、入居者個々にあったペースで食事摂取している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の安全性を考慮して夜間入浴は実施していない。13時から15時の間に希望を聞きながら入浴してもらっている。入浴拒否に関しては、その方に合わせた声かけ実施で入浴できている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生け花などのクラブ活動の参加や裁縫や計算・ビーズ選びなど生活歴や好みに合わせて入居者が自主的に行っている事もある。入居者の能力に合わせた役割が持てるよう職員が声かけを行っている。天気の良い日は、ドライブに出かけ、外でのおやつを楽しむ工夫もされている。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	野菜の水遣りを兼ねた散歩やベランダでの運動。1日1回はティータイムなどの機会を持つようにしている。車に乗っての外出も、昨年より回数が増やせており、入居者から希望が出るまでになっており、急遽出かけることもある。外出先での食事も行い、食欲も増進されている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入り口はオートロックになっているがデイルームからベランダに出る出入り口は、昼間に開放時間を設定している。外出希望時には出来るだけ添えるよう努力をしている。昨年に比べ、ベランダ入り口の鍵の開放など鍵をかけないケアへの取り組みが行えている。	○	鍵をかけることの弊害を考え、今後も改善方法を検討する機会を持つことを期待する。
27	71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間想定での避難訓練も実施している。グループホーム連絡会でも避難の実際について話し合いを持ったり、併設施設との連携が図れるような話し合いを持っている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは入居者と相談しながら決めており、併設の管理栄養士に相談しながらカロリーにも配慮している。水分は10時と15時に勧め、いつでも飲めるよう準備もされている。		



第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
		○居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者がクラブで生けた生け花や観葉植物などの緑を多く取り入れ季節感が感じられるようにしている。壁には行事の写真なども飾り、熱帯魚や犬と触れ合う機会もある。テレビやオーディオなどでカラオケなどを楽しみ五感への刺激も意識している。昼のスペースや廊下の隅を利用してのセミパブリックスペースを作り、一人になれる空間も作っている。玄関脇の花壇には季節の野菜を育てており、水やりも楽しみの一つとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたテレビや箆笥・暖簾など持ち込まれている。食器などの身の回りのものの持ち込みも家族と相談して決め、安心して暮らせる空間作りとなるよう工夫している。		

※  は、重点項目。